

第26回

水シンポジウム 2022 in やまがた

未来へ引き継ぐ母なる川最上川

～地球的視野に立ち流域全体で環境・文化・暮らしを守る～

■ シンポジウム Web同時配信

令和4年

7/21 木

入場無料
定員400名

10:00開会～17:10閉会(9:30開場)

【会場】山形テルサ 山形市双葉町1丁目2-3
(JR山形駅西口より徒歩10分)

○特別講演 ○パネル展示 ○テーマ別分科会
○市民団体発表

※Web同時配信へご参加の方も申し込みが必要です。

■ 現地見学会

令和4年

7/22 金

参加定員40名
※小学生以上対象
※参加費が必要です。

9:00出発～17:50解散

【見学先】最上川・最上小国川など

○大旦川水門、大久保遊水地 ○最上川美術館
○最上小国川流水型ダム ○封人の家 など

【集合】8:40 山形駅【参加費】高校生以上2,000円、小・中学生1,800円
※昼食代、保険代、施設入場料込み ※小・中学生は保護者同伴

— 参加申込み —

締切 ●シンポジウム・現地見学会
令和4年7月5日(火)
●WEB同時配信
令和4年7月12日(火)



シンポジウム 参加

Web同時配信 参加

現地見学会 参加

ホームページの各フォームからお申し込みください。

<https://mizushinpo2022.com/>

※ご参加申し込みは先着順となっております。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

主催/第26回水シンポジウム2022inやまがた実行委員会

【構成団体】(公社)土木学会水工学委員会、国土交通省東北地方整備局、山形県、山形市、美しい山形・最上川フォーラム

協賛/(一財)国土技術研究センター、(一財)先端建設技術センター、(一財)河川情報センター、(一財)経済調査会、
(一財)水源地環境センター、(一財)日本建設情報総合センター、(一財)ダム技術センター、(一社)東北地域づくり協会、
(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、(一社)東北地質調査業協会、(一社)日本建設業連合会東北支部、
東北建設業協会連合会、(一財)山形県治水協会、(公財)山形県建設技術センター、(一社)山形県測量設計業協会

新型コロナウイルス感染状況等により開催形態が変更になる場合があります。

詳しくは当ホームページ(<https://mizushinpo2022.com/>)をご覧ください。お問い合わせ先は、実行委員会事務局までお問い合わせください。



写真: ビューポイント写真コンテスト入選作品
「母なる流れ」 撮影:小島 弘さん



河川
基金

このシンポジウムは、土木学会継続教育(CPD)プログラムの認定を受けています(21日4.9単位、22日4.9単位)。このシンポジウムは、(公財)河川財団による河川基金の助成および(一財)建設工学研究振興会による助成を受けています。

未来へ引き継ぐ母なる川最上川～地球的視野に立ち流域全体で環境・文化・暮らしを守る～

山形県の県土面積はおもに、最上川、赤川、荒川の3水系の流域からなり、中でも最上川水系は、流域面積で山形県全体の76%を占め、その流域には県人口の8割を超える人々が暮らしています。

1つの県だけを流れる川としては日本一の大河である229kmにも及ぶこの「最上川」は、昔から人々の生活に深く関わってきており、山形県民は愛着をもって「母なる川」と呼んでいます。

最上川は、古今和歌集の中でそのことが歌われた平安時代から、かつては物流・交通の大動脈として基幹産業を支え地域経済の基盤が形成されるとともに、舟運によってもたらされた雅な上方文化が今も各地に息づいています。また、盆地と狭さく部が繰り返すことで、四季折々の変化に富んだ美しい景観をつくり出し、俳聖松尾芭蕉をはじめとする多くの文人、芸術家を惹きつけてきました。豊かな水利に支えられた稲作に代表される農業や、世界唯一といわれる染色用紅花生産、河川敷で行う芋煮会など、未来に誇るべき産業・文化が県民の生活に根付いており、これらを引き継いでいく必要があります。

一方、最上川は昭和42年の羽越水害において死者8人、床上浸水約1万戸などの水害をもたらしており、山形県ではこれまで、この

規模を治水の目標として河川改修やダムの整備などを進めてきました。しかし、令和元年10月の東日本台風では最上川の水位が観測史上1位を記録し、令和2年7月豪雨では県の風水害としては過去最大規模の施設被害を受けるなど、近年は災害が激甚化・頻発化しております。これらを踏まえ、現在、最上川をはじめとする「流域治水プロジェクト」に基づき、国土交通省と県、市町村、各関係機関が一体となって治水対策に鋭意取り組んでいるところで。

また、山形県のみならず全国的に顕著となっている近年の水害の激甚化・頻発化の要因として、地球温暖化による気候変動が考えられておりますが、環境問題は治水だけではなく、本県の農業、産業、文化などとも密接に関わっており、これらを持続可能なものにするためにも積極的に取り組んでいく必要があります。

本シンポジウムではこれらの特性を踏まえ、「盆地と狭さく部が連続する最上川の特徴を踏まえた流域治水の姿とその実現に向けて」、「最上川流域の環境保全・文化継承活動の新たな展開」について議論し、治水・利水・環境・文化などの視点でこれからの人々の暮らしと水との持続可能な関わり方を提案し、全国に発信します。

令和4年

7/21 木

シンポジウム Web同時配信 会場: 山形テルサ

※ご参加希望の方は、チラシおもとて面記載のホームページからお申し込みください。

| | |
|------|-------------------------|
| 午前の部 | 09:30 開場 |
| | 10:00 開会 (30分) |
| | 10:30 特別講演 (60分).....① |
| | 11:30 昼休憩・展示パネル見学 |
| 午後の部 | 12:50 第1分科会 (80分).....② |
| | 14:10 休憩 (10分) |
| | 14:20 第2分科会 (80分).....③ |
| | 15:40 休憩 (10分) |
| | 15:50 市民団体発表 (40分) ④ |
| | 16:30 全体会議 (30分) |
| | 17:00 次回開催挨拶 (10分) |
| | 17:10 閉会 |

【パネル展示会場】

1F・2Fテルサホール横ホワイエ

① 特別講演

『川の恵みをいかした地域づくり ～「最上川」での経験を踏まえて～』

【講師】 東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授 池内 幸司 氏



② 第1分科会

【テーマ】 盆地と狭さく部が連続する最上川の特徴を踏まえた流域治水の姿とその実現に向けて

【コーディネーター】 諏訪 義雄氏 (土木学会水工学委員会 河川部会長、土木研究所 河道保全研究グループ長)

【パネリスト】 風間 聡氏 (最上川水系流域委員会委員長、東北大学教授) /

溝口 敦子氏 (名城大学教授、東北大学教授) / 森谷 俊雄氏 (河北町長) /

國友 優氏 (東北地方整備局河川部長) / 竹内 晃氏 (山形県県土整備部県土整備推進監(兼)次長) /

③ 第2分科会

【テーマ】 最上川流域の環境保全・文化継承活動の新たな展開

【コーディネーター】 柴田 洋雄氏 (山形大学名誉教授、美しい山形・最上川フォーラム会長)

【パネリスト】 佐藤 五郎氏 (NPO法人 最上川リバーツーリズムネットワーク代表理事) /

相原 久生氏 (酒田市立資料館調査員) / 今野 正明氏 (最上川229ネットワーク共同代表) /

星野 高宏氏 (三郷堰土地改良区事務局長)

④ 市民団体発表

① 黒滝会「最上川の自然と遊ぶーおらんだのジオパークー」

② NPO法人 公益のふるさと創り鶴岡

「鶴岡市内川の環境美化活動及び河川環境保全に向けたゴミ排出削減キャンペーンについて」

令和4年

7/22 金

現地見学会 見学先: 最上川・最上小国川など

※ご参加希望の方は、チラシおもとて面記載のホームページからお申し込みください。

| |
|--|
| 08:40 集 合 (山形駅西口 霞城セントラル南向かい) |
| 09:00 出 発 見学① 大旦川水門、大久保遊水地 見学② 最上川美術館 |
| 11:40 昼 食 |
| 12:40 移 動 見学③ 最上小国川流水型ダム 見学④ 封人の家 (旧有路家住宅) 見学⑤ 堺田分水嶺 (最上町堺田駅前) |
| 16:15 解 散 (新庄駅) |
| 17:50 解 散 (山形駅) |



【参加定員】 40名 ※小学生以上を対象

【参加費】 高校生以上 2,000円

小・中学生 1,800円

(昼食代、保険代、施設入場料込み)

○先着順のため、ご希望に添えない場合がございます。

○万が一に備え「レクリエーション保険」に加入していただきます。

○参加費は当日現金で徴収いたします。

開催内容
お問合せ

【第26回 水シンポジウム2022 in やまがた】実行委員会事務局 (山形県県土整備部河川課内)

〒990-8570 山形市松波2丁目8-1 TEL: 023-630-2611 E-mail: info@mizushinpo2022.com